

2013年9月27日(金)

## 協和エクシオ、和歌山県紀の川市など3市町の一般廃棄物を処理する 広域ごみ処理施設の建設に着手

～「エネルギー回収推進施設」に加え「マテリアルリサイクル推進施設」も併設～

株式会社協和エクシオ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：小園文典）では、廃棄物処理や水処理、再生可能エネルギー施設の建設および運転・維持管理業務などの環境事業を展開しておりますが、和歌山県紀の川市、海南市、紀美野町の3市町で構成される「紀の海広域施設組合」（管理者：中村慎司 紀の川市長）から昨年受注した、紀の川市内に建設予定の新清掃ごみ処理施設の設計・建築工事に関し、このたびプラントおよび施設の設計が完了し、建築工事に着手することとなりました。

工事に先立ち、9月26日、同広域組合の管理者である中村慎司：紀の川市長をはじめ、和歌山県の関係者、来賓、当社代表取締役社長：小園文典をはじめとする工事関係者など約170名が出席し、現地で工事安全祈願祭ならびに起工式を執り行いました。

なお、本施設の完成は2015年10月を予定しています。

今回当社が着手する工事は、紀の川市、海南市、紀野美町の3市町から排出される一般廃棄物を効率的に処理するごみ処理施設の建設に関するもので、可燃ごみ（マテリアルリサイクル推進施設からの選別可燃物含む）を焼却し、焼却により発生する熱エネルギーを有効活用する「エネルギー回収推進施設」と、紀の川市および紀美野町から排出される粗大ごみ、びん類、缶類、ペットボトル、プラ容器等を破砕・選別等により資源回収を行う「マテリアルリサイクル推進施設」、さらには管理棟を建設するものです。

エネルギー回収推進施設は、ストーカー式焼却炉を2炉設置し日量135トンの処理に対応するほか、粉じんや悪臭などの公害防止設備として、集じん装置、消臭剤噴霧装置を設置。加えて、施設内の排水に関しても、場外に排水を出さないクローズド方式を採用しています。

当社では、今回の工事を安全に滞りなく実施するとともに、今後も地球環境保全と循環型社会の形成に貢献する環境システムの提供および運転・維持管理業務を積極的に提案していく方針です。

なお、今回の工事概要は以下の通りです。

工 事 名：紀の海広域ごみ処理施設建築工事  
工 事 場 所：和歌山県紀の川市桃山町最上字亀澤地内  
施 設 規 模：建築面積 7,390 m<sup>2</sup>

・エネルギー回収推進施設

鉄骨造（延床面積 6,508 m<sup>2</sup>）、地上7階 地下2階

処理量： 135t/24h（67.5t/24h×2）

処理方式：全連続燃焼式ストーカー方式

（余熱利用設備：タービン発電 発電出力 1,950kw）

処理規模：135t/24h（67.5t/24h×2 炉）

公害防止設備：(粉じん)集じん装置  
(悪臭)消臭剤噴霧装置  
(排水)クローズド方式(場外に出さない方式)

余熱利用方式：発電、場内給湯等

・マテリアルリサイクル推進施設

鉄骨造(延床面積 5,023 m<sup>2</sup>)、地上3階、地下1階

選別処理量：17t/日

※ 設備別処理量

・粗大ごみ処理設備(破碎・選別)	6.6t/日
・びん類処理設備(手選別)	3.5t/日
・缶類処理設備(機械選別・圧縮成型)	0.9t/日
・プラ容器・ペットボトル処理設備(手選別・圧縮梱包)	3.0t/日
・白色トレイ貯留設備	0.1t/日
・古紙類貯留設備	2.8t/日
・蛍光灯・乾電池貯留設備	0.1t/日

・管理棟

鉄骨造(延床面積 1,533 m<sup>2</sup>)、地上2階

事務室、研修室、見学者ホール、再生品展示スペース

処理対象物：可燃ごみ、粗大ごみ、びん類、缶類、プラ容器、ペットボトル、白色トレイ、古紙類、蛍光灯・乾電池

工事期間：平成24年8月3日から平成27年10月31日まで ※設計期間を含む

受注金額：5,838,000,000円(消費税及び地方消費税込)

設計・施工：株式会社協和エクシオ

工事管理：株式会社日産技術コンサルタント



「紀の海広域ごみ処理施設(仮称)」の完成予想図



工事安全祈願祭の様子  
(写真は、協和エクシオ代表取締役社長 小園文典)

本資料に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 協和エクシオ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-29-20 総務部 CSR・広報室

電話:03-5778-1075(直) FAX:03-5778-1228

担当:高柳 圭伸